科目名	認知発達特論（２）
科目属性	専門科目Ｂ群
担当教員	伊藤　一美
単位数	２単位（SC　0 単位）

【授業の目的・ねらい】
【授業概要】※認知発達特論（１）と履修の順序は問わない
　本科目では、認知と発達をキーワードに、加齢(エイジング)に焦点を当て、認知の個人差に応じた支援方法について検討できることを目指す。認知過程の基礎である記憶の発達の個人差を理解することは、加齢(エイジング)に認知機能の変容を理解することにつながる。さらに、加齢(エイジング)を理解することは、知的障害を含む発達障害のある人の青年期以降の支援につながると考える。そこで、本科目では、加齢(エイジング)によるさまざまな認知機能の変容を理解し、医療や福祉の現場における支援方法を検討できる力をつけることを目指したい。

【授業の到達目標】
この授業の具体的な到達目標は、以下の 4 つである。
1. 記憶の生涯発達の過程(とくに青年期、成人期、高齢者を中心に)を理解する
2. 記憶や認知のエイジングを理解する
3. 高次脳機能障害の支援を理解する
4. 発達障害の支援を理解する
5. エイジングの支援のあり方について研究する

【授業計画】
全 15 回の授業計画は以下のとおりである。

第 1 回　青年期の記憶　―短期記憶とワーキングメモリ―
第 2 回　青年期の記憶　―エピソード記憶と意味記憶―
第 3 回　成人期の記憶　―短期記憶とワーキングメモリ―
第 4 回　成人期の記憶　―エピソード記憶と意味記憶
第 5 回　高齢者の記憶　―短期記憶とワーキングメモリ―
第 6 回　高齢者の記憶　―エピソード記憶と意味記憶―
第 7 回　記憶のエイジングの特徴
第 8 回　記憶の測定法
第 9 回　エイジングによる認知機能の成熟と成長
第 10 回　エイジングによる認知機能(知能)の変容
第 11 回　認知機能(知能)の測定
第 12 回　高次脳機能障害　―記憶障害―
第 13 回　高次脳機能障害　―その他の障害―
第 14 回　エイジングと支援
第 15 回　発達障害の理解と支援
　科目修得試験

【評価方法】
「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%) の割合で総合して評価する。

【教科書】
谷口幸一･佐藤眞一(編著). (2007).エイジング心理学 老いについての理解と支援,北大路書房.
ISBN-13: 978-4762825729

【参考図書】
太田信夫･多鹿秀継. (2008).記憶の生涯発達心理学,北大路書房.
ISBN-13 ： 978-4762825910